委員会審議	平成 30 年 10 月 26 日

申　請　者	11 病棟看護師	佐藤貴美江
1	脳性麻痺患者の筋緊張への看護介入の効果　～温罨法の有効性の検証～	

研究の概要

1）目的

脳性麻痺患者に法を実施することで、筋緊張の軽減が図れるか明らかにする。

2）対象及び方法

(1) 対象　脳性麻痺患者 16 名

(2) 方法

①温罨法実施前は患者に説明する。

②ホットパックの準備について

アクアゲルホットパックゲル（タイヘイ社製　30 ㎝× 34 ㎝）を表面温度 50 度まで温め、患者実施時は表面温度 40 度で使用する（温度測定については防水デジタル温度計を使用）

③アシュワーススケール【Modified　Aahworth　Scale（MAS）】

患者の関節を測定者が他動的に動かした際の抵抗感を 6 段階で評価し、痙縮について評価する。

グレード	判定基準
0	緊張の増加なし
1	軽度の筋緊張亢進があり、可動域の初期か終末にわずかな抵抗感がある。
1＋	軽度の筋緊張亢進があり、可動域の初期から引き続き 1/2 まで抵抗感がある。
2	さらに亢進した筋緊張がほぼ全可動域全域にある。
3	著明な筋緊張亢進があり、他動運動は困難である。
4	他動では動かない

④温罨法の実施方法について

（1）温罨法の実施前・中・後のデータ測定を行う。

（2）温罨法実施時間は抗てんかん薬・筋弛緩薬等の影響を可能な限り排除した内服 2 時間前に設定する。

（3）温罨法実施前に体温、脈拍、SPO2 を測定し感染兆候がみられないか確認する。ホットパックを専用カバーに包み腰背部に当て、開始前、開始から 10 分、20 分、30 分にアシュワーススケール（MAS）で測定する。

・MAS の観察部位は肘関節とする。

・実施中・後も皮膚の状態を観察し、発赤や痛みや不快感などの異常があればすぐに中止し、状況に応じて医師に依頼するなど、症状緩和のための対処を行う。

（4）測定者は看護研究メンバーが行う。

3）実施場所及び実施期間

(1) 実施場所　11 病棟病室ベッド上

(2) 実施期間　平成 30 年○月から

判定	不承認	本審査は不承認となった。

委員会審議	平成 30 年 10 月 26 日

申　請　者	5 病棟看護師	小池　佳世
2	外国人結核患者の結核の理解　～患者指導の効果～	
研究の概要	（1）目　的 看護師の外国人結核患者への看護実践を明らかにする。 （2）　研究方法 ＜第一研究＞ 1）　研究目的：外国人結核患者指導の実態を明らかにする。 2）　研究デザイン：実態調査（半構成的質問紙調査） 2）研究対象者：結核病棟の看護師 3）研究期間：2018 年 11 月~2019 年 3 月 4）データ収集方法 ①協力依頼について 研究代表者・協力者が説明し、協力依頼をする。 ②アンケート調査項目 ・外国人結核患者への指導内容 ・コミュニケーションの方法や工夫 ・コミュニケーションツールや通訳などの活用状況 ・困っていることや改善案 ③アンケートの回収について アンケートの回収袋の設置は、5 病棟休憩室内に設置し、24 時間自由に投函できようにする。 5）データ分析方法 得られたアンケート結果をエクセルで単純集計・クロス集計し分析する。 記述については、記述的統計し分析する。 ＜第二研究＞ 1）研究目的　外国人結核患者用パンフレットを使用しての患者指導の効果を明らかにする。 2）研究デザイン：半構成的質問紙調査 3）研究対象者：結核病棟の看護師 4）調査期間：2019 年 10 月~2019 年 11 月 5）データ収集方法 ①協力依頼について 研究代表者・協力者が説明し、協力依頼をする。 ②アンケート調査項目 ・外国人結核患者への指導内容 ・コミュニケーションの方法や工夫 ・外国人結核患者用パンフレットの活用状況 ・コミュニケーションツールや通訳などの活用状況 ・困っていることや改善案 ③アンケートの回収について アンケートの回収袋の設置は、5 病棟休憩室内に設置し、24 時間自由に投函できるようにする。 6）データ分析方法 得られたアンケート結果をエクセルで単純集計・クロス集計し分析する。 記述については、記述的統計し分析する。 第一研究の結果とパンフレットを使用しての患者指導の効果を分析する。	
判定　不承認	本審査は不承認となった。	

委員会審議	平成 30 年 10 月 26 日

申　請　者	5 病棟看護師	小森　由美
3	壮年期にある施設入所をしている重症心身障害者をもつ親自身のライフストーリー	
研究の概要	（１）目的 壮年期にある施設入所の重症心身障害者を持つ親自身のライフストーリーを明らかにすること。 （２）研究方法 １）研究デザイン：質的記述的研究 ２）データ収集方法 ①研究の対象者 重症心身障害児（者）病棟に入所している壮年期にある重症心身障害者を持つ親で、本研究の主旨を理解し、了解がえられた親とする。各病棟 1 から 2 名とする。 ②対象者の選定方法 ア）院長に研究の協力依頼をする。 イ）看護部長に、研究の協力の依頼をする。 ウ）研究の協力が得られた場合は、重症心身障害病棟の看護師長に研究の概要を説明し、対象者 1 名～ 2 名を紹介していただく。 エ）紹介された対象者の都合を看護師長に確認していただき、対象者に直接、口頭と文章で研究の主旨を説明し、同意を得る。 ③データ収集方法 面接は、インタビューガイド（資料６）を用いた半構造化面接を行う。面接時間は 30 分～ 60 分程度とする。面接場所は、プライバシーが守られる場所とする。対象者の許可を得たうえで IC レコーダーに録音および記録を行う。 （３）データの分析方法 ① データから逐語録を作成する。 ② 研究対象者ごとに逐語録を精読し、文脈を理解する。 ③ 逐語録より重症心身障害者を持つ親自身の人生に焦点を当て分析対象の文脈単位を抽出する。 ④ 導き出したコードを意味内容の類似性と共通性に基づき分類し、サブカテゴリ、カテゴリの形成と命名を行う。 ⑤ 得られたカテゴリはカテゴリ間の関係を図式化し、全体像の作成を行う。なお分析過程において研究者の客観性を担保するためにコードの抽出は繰り返し検討する。 ⑥ 分析過程においては、質的研究に精通した研究者よりスーパーバイズを受け繰り返し検討を行う。 （４）用語の定義 壮年期：40 歳～ 64 歳までと定義する。 ライフストーリー：個人のライフ（人生）に焦点をあわせてその人自身の経験をもとにした語り。 （５）対象及び実施場所 ①　研究の対象者 重症心身障害児（者）病棟に入所している壮年期にある重症心身障害者を持つ親 5 名～ 6 名 ②　実施場所 施設の重症心身障害児（者）病棟で、プライバシーの保護が可能な場所で実施する。	
判定　承認	本審査は条件付で承認された	

委員会審議	平成 30 年 10 月 26 日

申　請　者	12 病棟看護師	岩間　礼子
4	ネマリンミオパチーで人工呼吸器装着中の男児の基本的生活習慣【排泄】獲得への援助	
研究の概要	（１）目　的 前年度の研究で、規則正しい生活を整え、更に他職種間の連携強化により集団生活への適応ができ、運動・社会性・言語などの面から成長発達がみられた。今年度男児は就学し、発達年齢や生活年齢を考慮した関わりの中で、更に身体的・精神的発達が著しい。排泄の自立は、成長していく上で最も基本となる生活行動の一つである。男児はこれまでトイレトレーニングを行ったことはなく、現在オムツを着用し、尿意の訴えはない。トイレトレーニングを行うことにより基本的生活習慣・排泄の獲得ができるのではないかと考えた。 （２）対象及び方法 《対象》 ネマリンミオパチーで人工呼吸器を装着している 7 歳男児 《方法》 事例研究 ① 事前に研究の目的・方法・倫理的配慮を対象者本人へわかりやすく説明、家族に説明し同意を得る。 ② 行動観察用紙、看護記録、排泄チェック表から患児の行動を分析・評価する。 （３）実施場所及び実施期間 《実施場所》 12 病棟内 《実施期間》 平成 30 年 11 月～平成 31 年 12 月 30 日	
判定　承認	本審査は全会一致で承認された	